

3く3く

第4号

里山建築研究所筑波山麓録
Hoketsu Kenkyukai
Mitsubishi 1111111

特集

旧造り酒屋 土蔵の修復

01

板倉の仮設住宅 震災復興プロジェクト

02~03

information

仮設住宅環境改善ワークショップ/
筑波山麓グリーン・ツーリズム推進協議会/
竹中大工道具館「葺く一草と木でつくる屋根」

04

report

筑波大学民家調査/多気太郎万灯絵/
第2回茅葺きフォーラム

04

旧造り酒屋 土蔵の修復



修復された土蔵。

今回の震災により多くの建物が損傷を受けました。生活の場である住宅は優先して修復されましたが、古い蔵などは後回しとなつていきます。特に被害の目立つ土蔵は、歴史的な価値があるものの、修復に手間が掛かることから、取り壊されたもの、あるいはそのまま放置されてしまふ場合も少なくありません。そのような中、つくば市の老舗造り酒屋であった酒井酒造の土蔵は修復が無事終わりました。

大きな被害があつたのは瓦屋根と漆喰壁です。瓦は最近の葺きかたとは異なり、土蔵の場合、屋根に土をのせて、その上に瓦を並べているだけなので、地震の大きな揺れによって落下してしまいました。瓦の落下によって下屋も損傷を受けたので、下屋を取り除き、三間×六間の土蔵本体のみ修理しました。



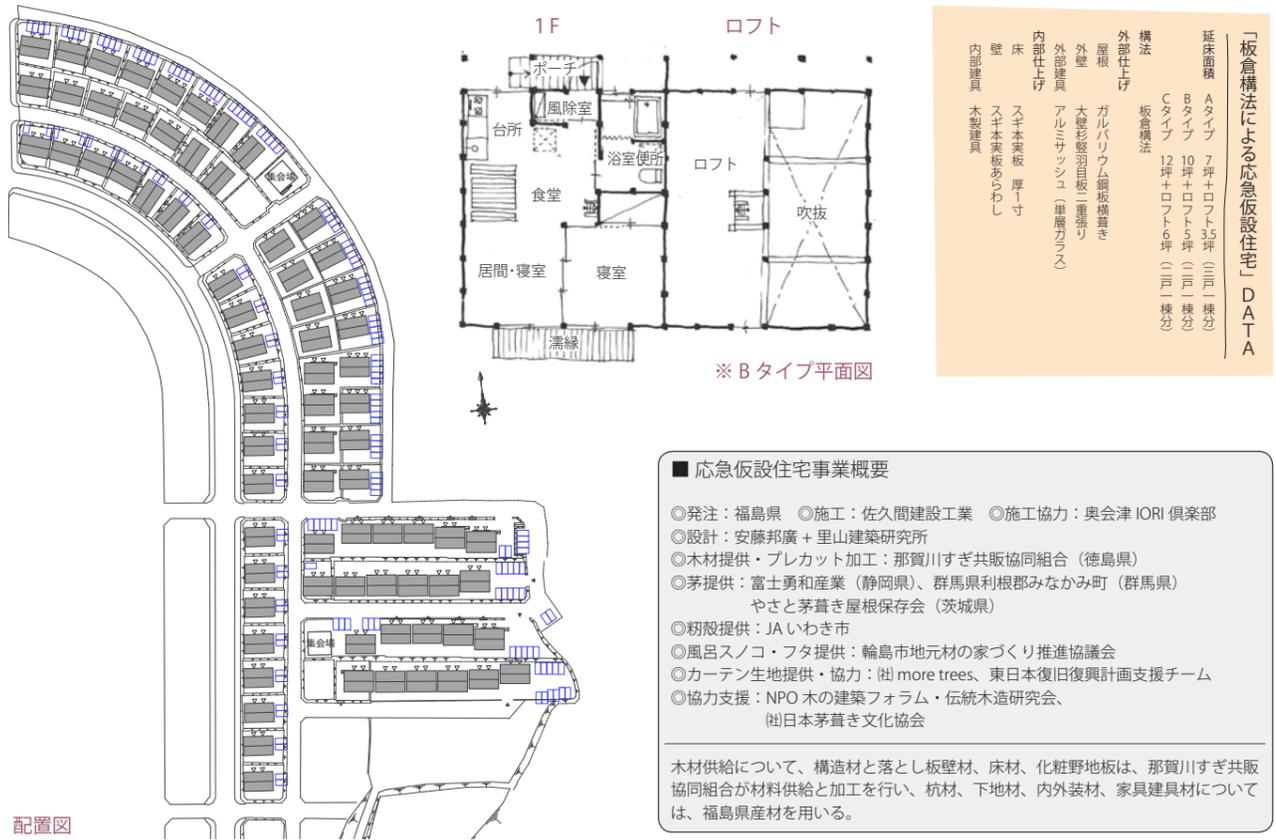
瓦の落下により倒壊した下屋。

雨風で傷まないようビニールシートで覆われていた屋根は、新たに垂木をのせて、その上に野地板が張り重ねられ、再び瓦葺きとなりました。壁面は、漆喰塗り仕上げだった壁と破風・蛇腹も板材によって張替えられました。

外観に痛々しい震災の傷跡がありました。この土蔵は、堅牢なもので、構造の損傷は見受けられませんでした。そのため、修復は外部の行いました。

修復した土蔵は、新たな活用法を模索中で、利用者を募集しています。

「千代萬代土蔵」DATA	
延床面積	36坪(二階18坪十二階18坪)
構造	二階建て、二間×六間
外部仕上げ	土蔵
屋根	しんし瓦葺き
外壁	又千板張り(補修)



いわきニュータウン内に立ち並ぶ板倉の仮設住宅。
 福島第一原子力発電所から20キロ圏内に位置する楢葉町の住人が入居している。撮影・齋藤さだむ

板倉の仮設住宅 震災復興プロジェクト

福島県いわき市／いわきニュータウン内



家づくりの裏側④ 「板倉構法」

里山建築では、板倉構法による家づくりを行っております。

板倉構法は、古くから伝えられてきた板で倉をつくる「板倉づくり」にならった構法で、柱と柱の間に厚板を落とし込むことで、その構造は堅牢で耐久性があり、一定の温度と湿度を保つ木の特性から、高温多湿な日本で適しています。また、耐震、耐火については、共に大臣認定を取得し現代の基準を満たしています。現代の日本にある森林資源のズギを活用し、地域のストックとなる住宅をつくることを目的に開発されたものです。

四寸角の柱間に一寸の厚板を落とし込んだ壁がそのまま構造と仕上げを兼ねることが特徴的です。構造部は基本的に木で組むので接着剤や壁紙など化学製品を用いませぬ。そのためVOC（揮発性有機化合物）がゼロとなり健康的な居住空間を提供できます。

- 基礎をうち土台に柱を建てる。
- 柱間に厚板を落とし壁をつくる。
- 小屋組みをつくり上棟する。
- 野地板を張る。
- 屋根を葺く。
- 完成。

福島県いわき市で、6月より始まった応急仮設住宅の建設は7月中にほぼ終わり、8月より被災者の入居が進んでいます。

これまでの仮設住宅は工場部品を大量に生産できるプレハブ方式の仮設住宅が大多数を占めていましたが、福島県は豊富にある森林資源の活用と被災地の雇用を促すために、予定していた仮設住宅建設1万4千戸のうち4千戸を地元工務店に対して公募しました。

公募の結果、いわき市に約160戸建設が決まり、里山建築研究所と安藤邦廣（筑波大学大学院教授）の共同設計のもと、地元工務店である佐久間建設工業によって建設されました。板倉構法でつくられた応急仮設住宅は、構造の主となる柱や梁、壁や床などの木材が再利用でき、仮設住宅の役割を終えた後、復興住宅になるよう設計されています。

急を要する工期のため、十分な乾燥が必要となる木材は20万枚の板材のストックを持つ徳島県より取り寄せましたが、他の4割の木材は福島県産の杉で賄われました。徳島県だけでなく資材提供には、屋根の断熱材の茅（静岡県、群馬県、茨城県）風呂用のスノコとフタは石川県など各県からご提供をいただきました。また作り手の主役である大工職人は、会津の職人を中心に全国10以上の都道府県から集まり、その見事な団結力で上棟しました。

仮設住宅環境改善 WS 2011.10.15

いわきニュータウンに建設された、板倉の仮設住宅で居住空間をより良くしようと、建設の際余った木材を活用して縁台や棚などを製作するワークショップです。大工職人指導のもと被災者と一緒の日曜大工をします。ボランティア・参加者募集。

◆開催期間 2011年10月15日(土)、16日(日)
主 催：筑波大学大学院安藤研究室
連絡先：029-853-2847

筑波山麓グリーン・ツーリズム推進協議会 2011.5.20

筑波山麓の豊かな自然や農の体験を通して、都市と農村の交流を深め、地域の活性化につなげようと「筑波山麓グリーン・ツーリズム協議会」が発足しました。里山建築研究所も事務局として参加しています。

筑波大学民家調査① 2011.07
ブルネイ国カンボンマイル



マレーシアのボルネオ島の一角にブルネイ・ダルサラーム国があります。ブルネイ湾に広がるカンボンマイルは、世界最大ともいわれる水上集落です。ちなみにマレー語でカンボンは「村」、マイルは「水」の意味。この地域の家は水中に打った杭の上に建つ木造の高床住宅で、2メートルほどの干満の差に対応できます。また、家々は路地のように廻る高床の木道で繋がっています。かつては東南アジアの交易ルートの港として栄えたカンボンマイルでは、水上交通の利便性に加えて、熱帯雨林の病虫害から身を守るため、さらに涼しさを求めて、水上の暮らしが長く続いてきました。近年、政府は陸地への移住を勧めています。今回も根強くモーターボートの水上交通を利用して、3万人がカンボンマイルに暮らしています。今回の調査は、生活の近代化や観光開発がすすむ中で、水上居住の存続の方法を探ることを目的として、集落配置や木造の高床住宅の実測調査、温熱環境調査、住まい方の調査を行いました。



第2回茅葺きフォーラム 2011.03
日本茅葺き文化協会

第2回茅葺きフォーラムが鹿児島県南九州市知覧で開催されました。知覧といえば、特攻記念館や知覧茶で有名ですが、知覧型ニッ家と呼ばれる独自の茅葺き民家が残る地域でもあります。おいしい茶葉の生産には、畑に茅が欠かせません。茅は良質な肥料として現在でも使われています。ところが茅葺き屋根というと数少なくなり、知覧ニッ家やとよばれる、独自の形状をした屋根は残すところ3戸となってしまいました。茅を使うにもかかわらず、職人不足、茅不足となっているこの地域で何が問題となっているか、また「茅葺きは地域資源」と題してフォーラムが開催され、全国の茅葺き関係者で茅や茅葺きの可能性について多角的に意見交換がされました。

竹中大工道具館
日本茅葺き文化協会

竹中大工道具館平成23年度企画展「葺く一草と木でつくる屋根一」関西の茅葺き職人3人による公演と体験会が開催されます。

開催期間
【東京】2011年8月22日(月)～10月1日(土)
【神戸】2011年10月7日(月)～11月27日(土)
◆神戸記念講演

2011年10月16日(日)14:00～16:30
「職人と語る屋根のはなし」

◆体験教室
2010年10月30日(日)10:00～15:00
※詳細は公式HPをご覧ください。
問い合わせ：竹中大工道具館
<http://dougukan.jp/fuku/>

report

筑波大学民家調査② 2011.09
中国吉林省延辺



中国東北部に位置する延辺朝鮮族自治州は、漢族と朝鮮族が居住する地域です。この地域の民家は、カラムツやアカマツなどの丸太をログハウスの様に組み両面を土塗り仕上げとする井乾式(ちんがんしき)です。今回調査を行った、漢族の住まいは、大きさは4m×9mで3部屋に分かれています。中央の土間には左右の壁際にカマドがあり、土間を挟んで両側に、部屋の半分がカンになった対象形の個室があります。土間にあるカマドで調理をすると煙がカンの中を通り、寝床を暖めます。一方、朝鮮族の住まいは、同程度の大きさのワンルームで冬向きに作られています。カマドを境にして土間と広間があり、広間はオンドルになっています。カンと同様に土間で調理をするとカマドの熱が広間に伝わり、住まい全体を暖めます。夏の昼間は暑くなるので庭にある外カマドで調理をします。調査に伺ったお宅でも、外カマドで調理した美味しい万頭をいただきました。



多気太郎万灯絵 2011.08
筑波山麓地域レポート

つくば市北部の北条商店街。その裏通りには商店街に沿うような形でお堀りがあります。実はこの裏堀りの歴史は古く、言い伝えによると、中世にこのあたりを治めていた多気氏の多気太郎によってつくられたとされています。残念ながら、その後台頭してきた小田氏によって多気氏は没落してしまいますが、生活に根ざした整備をしたせいか、北条地区の人々に親しまれ、今日でもお盆になると、灯籠に火がともされ慰霊されます。今年は地元小学校である北条小学校の児童らによってつくられた灯籠で飾られました。

株式会社 里山建築研究所

〒300-0411
茨城県つくば市神郡一〇八
TEL / FAX: 029-867-1086
URL: <http://www6.ocn.ne.jp/~s-archi/>
E-mail: satoyama.archi@air.ocn.ne.jp

会社概要

里山資源を生かした居住スタイルを探る実践的な試みの場として、筑波山の山裾に開設したのが、里山建築研究所です。現代の里山に循環を取り戻すべく考案された板倉の家を提案し、時代の趨勢によって変わり続ける民家の現代のかたちを探ることが、私達の試みです。

しごと

設計・設計監理
「板倉の家」：新築、改築
「民家再生」：改築、移築
「茅葺き」：葺き替え修繕、新築
他 「企画制作、調査研究」
「地域づくり支援活動」

編集後記

ブルネイの草帽子、中国の文房具とおみやげを買いました。買ったばかりなのに既によれよれなので大切に扱っています。

